

トローラーに学ぶ

カタストロフとサステナビリティ
：ノアとアブラハムの場合

カタストロフ後に残るもの—サステナビリティ

手島 勲矢 / Isaiah Teshima, Ph.D.



地球規模で起きる物語の崩壊と再創造

- ◆ サピエンス全史の著者ユヴァル・ノア・ハラリの主張
 - 人類が今まで生き残ることができた大きな原因の一つは、噂を語ることができる認識革命 (手島はそれを《三人称言語の獲得》と名付ける) がサピエンスの言語に起き、それによって《物語》を語ることが可能になり、その《物語》を共有し信じることで、お互いに見知らぬ同志でも協力し合える《集団行動の最大化》を可能にした点大きい。
 - しかし、COVID-19をきっかけに、今、皆を一つにしていた《物語》が崩壊しつつある。現在、全世界で起きている混乱の中身は、言い換えれば《物語の崩壊と再創造のプロセス》であり、それを【物語のグレート・シフト】と手島は名付けておきたい。
- 以下のリンクは進化論を社会物語にする価値議論/David Sloan Wilson vs. Oren Harman
→<https://www.youtube.com/watch?v=tsZa3bi8apE>



ユダヤ教徒は一年間でトーラーの巻物を読み上げる。 毎週の朗読単元から考えるカタストロフ

- 【ベレシート】
- 【ノア】
- 【レフ・レハー】
- 【ヴァイエラ】

スピノザ

「聖書の全知識は聖書の中からのみ求められるべきであって、自然的光明によって認識する事柄から求められるべきでない」



重要 聖書の隠れた論理的一面を学ぶ。ヘブライ語文法の尊重

- この単元順序に学ぶ（もちろん他の単位での順序の可能性もある）。
ユダヤ聖書解釈の精神は、外側の形式は厳密にこだわるが、その意味解釈は自由。
- イブン・エズラ「文字は身体、意味は魂」スピノザ「文字は身体、母音は魂」



ユダヤ教徒は一年間でトーラーの巻物を読み上げる。 毎週の朗読単元から考えるカタストロフ

- 1. ベレシート（初めに） - 創世記1:1~6:8

人の創造、男女の創造、失樂園、カインとアベル、固有名詞アダムの登場、技術を求めるカインの人々。神の子らの悪と墮落。力ある者は名前の人たち。

- 2. ノア（ノアの系図） - 創世記6:9~11:32

義人ノアの登場、洪水の話、バベルの塔の話、アブラムの旅立ち

- 3. レフ・レハー（汝は出行けよ） - 創世記12:1~17:26

アブラム、約束の地に向かう、イシュマエルの誕生と割礼。

- 4. ヴァイエラ（神は現れた） - 創世記18:1~22:24

アブラハムの交渉、ソドムとゴモラ、ロトと二人の娘、アビメレクのために祈る、イサクの誕生、イサクの燔祭



ベレシート 創世記 1章

●日本語訳（新共同訳）

天地の創造

- 1 初めに、神は天地を創造された。
- 2 地は混沌であって、闇が深淵の面にあり、神の霊が水の面を動いていた。
- 3 神は言われた。「光あれ。」こうして、光があった。
- 4 神は光を見て、良しとされた。神は光と闇を分け、
- 5 光を昼と呼び、闇を夜と呼ばれた。夕べがあり、朝があった。第一の日である。
- 6 神は言われた。「水の中に大空あれ。水と水を分けよ。」
- 7 神は大空を造り、大空の下と大空の上に水を分けさせられた。そのようになった。
- 8 神は大空を天と呼ばれた。夕べがあり、朝があった。第二の日である。
- 9 神は言われた。「天の下の水は一つ所に集まれ。乾いた所が現れよ。」
- 10 神は乾いた所を地と呼び、水の集まった所を海と呼ばれた。神はこれを見て、良しとされた。



ベレシート 創世記 1章

- 日本語訳（新共同訳）

- 11 神は言われた。「地は草を芽生えさせよ。種を持つ草と、それぞれの種を持つ実をつける果樹を、地に芽生えさせよ。」そのようになった。
- 12 地は草を芽生えさせ、それぞれの種を持つ草と、それぞれの種を持つ実をつける木を芽生えさせた。神はこれを見て、良しとされた。
- 13 夕べがあり、朝があった。第三の日である。
- 14 神は言われた。
「天の大空に光る物があって、昼と夜を分け、季節のしるし、日や年のしるしとなれ。」
- 15 天の大空に光る物があって、地を照らせ。」そのようになった。
- 16 神は二つの大きな光る物と星を造り、大きな方に昼を治めさせ、小さな方に夜を治めさせられた。
- 17 神はそれらを天の大空に置いて、地を照らさせ、
- 18 昼と夜を治めさせ、光と闇を分けさせられた。神はこれを見て、良しとされた。
- 19 夕べがあり、朝があった。第四の日である。



中世文法学者には： 二つの天地創造の話は普通名詞から派生する固有名詞の物語

■ アブラハム・イブン・エズラは2種類の名詞があると考えている。

①【シエム/トアル姿の名前→普通名詞】

単数・複数の区別、定冠詞の装着、連結語が可能な一般名詞（姿の名前＝形容詞的な名詞：特徴の共通で集合グループ化させる名前）比較考察による数値化が可能な名前。人間は神のイメージで造られた。

②【シエム/エツエム骨の名前→唯一の個の存在の名前】

定冠詞を取らない。複数形がない。連結語（ニスマフ）になれない。純粹に唯一性の存在を示す名前なのでグループ所属を拒絶。神も唯一性の場合固有名詞YHWHを使う。男性複数形エロヒムは、神を指す普通名詞。必ずしも聖書の神のみを意味しない。単数形の動詞が使われるとき一つの神を意味して、それはYHWHを意味する。諸民族の神々が意図されるときは複数形で使われ動詞も複数形になる。

この観点で【ベレシート】を読むとアダムの使用例が、創世記1章では定冠詞をとり普通名詞であるが、5章アダムの系図では固有名詞とみなされている。アダム種類は「人」であるが失樂園するときには男は彼の女を「イブ」固有名詞で呼んだ（アダムとイブ）。「神」と「人」だけが、本性的に固有名詞を持つ。二つの名前が共存する存在として認識されている。



ベレシート 創世記 1章

● 日本語訳（新共同訳）

26 神は言われた。

「我々にかたどり、我々に似せて、

人を造ろう。そして海の魚、空の鳥、家畜地の獣、地を這うものすべてを

支配させよう。」

27 神は御自分にかたどって**人**を創造された。

神にかたどって創造された。

男と女に創造された。

- ◆ 1:26はアダムの種類を創造する提案、だから特定できないので定冠詞はついてない。
- ◆ 1:27は実際に神が一つのアダムを作った話で、「そのアダム」と個体を特定する知識のヘイ定冠詞が必要になる。

בְּצַלְמֵנוּ ヌーメるァツベ に像の達私 尾・単男・前	אָדָם ムダア を人 単男	וַעֲשֵׂה 一セアナ うろ造は達私 複1未パ	אֱלֹהִים ムーヒロエ は神 複男	וַיֹּאמֶר 26 ルメヨァヴ たっ言てしそ 単男3未パ・倒
הַיָּם ムヤハ の海	בְּרֵית トッガウディヴ 魚	וַיְרִדוּ 一ウドルイエヴ るめ治はら彼てしそ	כְּדַמוֹתֵינוּ ヌーテムウドキ に姿似の達私	

בְּצִלְמֵם ムれェツベ に像 連単男・前	בְּצַלְמוֹ 一モるァツベ に像の分自 尾・単男・前	הָאָדָם ムダアハ 人 単男・冠	אֶת- トツエ を 前	אֱלֹהִים ムーヒロエ は神 複男	וַיִּבְרָא 27 一ラヴァィァヴ たし造創てしそ 単男3未パ・倒
אֲתֶם: ムタオ をら彼 尾・前	בְּרָא 一ラバ たし造創 単男3完パ	וַיִּקְבָּה 一ァヴケネウ に性女と 単女・接	זָכָר ルはザ 性男 単男	אֶתוֹ 一トオ をれそ 尾・前	בְּרָא אֱלֹהִים 一ラバ ムーヒロエ たし造創 の神 単男3完パ 複男



ベレシート 創世記 2章

● 日本語訳（新共同訳） ■ ハ・アダム 普通名詞

- 1 天地万物は完成された。
- 2 第七の日に、神は御自分の仕事を完成され、第七の日に、神は御自分の仕事を離れ、安息なされた。
- 3 この日に神はすべての創造の仕事を離れ、安息なされたので、第七の日を神は祝福し、聖別された。
- 4 これが天地創造の由来である。主なる神が地と天を造られたとき、
- 5 地上にはまだ野の木も、野の草も生えていなかった。
主なる神が地上に雨をお送りにならなかったからである。また土を耕す人 もいなかった。
- 6 しかし、水が地下から湧き出て、土の面をすべて潤した。
- 7 主なる神は、土（アダマ）の塵で人（アダム）を形づくり、その鼻に命の息を吹き入れられた。
人はこうして生きる者となった。
- 8 主なる神は、東の方のエデンに園を設け、自ら形づくった人をそこに置かれた。
- 9 主なる神は、見るからに好ましく、食べるに良いものをもたらしあらゆる木を地に生えいさせ、
また園の中央には、命の木と善悪の知識の木を生えいさせられた。

2:5の原文にはアダムに定冠詞ヘイがない。これは1:26のアダムにも定冠詞がないのと同じ理由。種類の話。しかし、2:7になると、定冠詞が付く。実際に造った特定できる種類の中の個体として「その人ハアダム」。



ベレシート 創世記 2章

・ 日本語訳（新共同訳）

10 エデンから一つの川が流れ出ていた。園を潤し、そこで分かれて、四つの川となっていた。

11 第一の川の名はピションで、金を産出するハビラ地方全域を巡っていた。

12 その金は良質であり、そこではまた、琥珀の類やラピス・ラズリも産出した。

13 第二の川の名はギホンで、クシュ地方全域を巡っていた。

14 第三の川の名はチグリズで、アシュルの東の方を流れており、第四の川はユーフラテスであった。

15 主なる神は人を連れてきて、エデンの園に住ませ、人が底を耕し、守るようにされた。

16 主なる神は人に命じて言われた。「園のすべての木から取って食べなさい。

17 ただし、善悪の知識の木からは、決して食べてはならない。食べると必ず死んでしまう。」

18 主なる神は言われた。「人が独りでいるのは良くない。彼に合う助ける者を造ろう。」

19 主なる神は、野のあらゆる獣、空のあらゆる鳥を土で形づくり、人のところへ持って来て、人がそれぞれをどう呼ぶか見ておられた。人が呼ぶと、それはすべて、生き物の名となった。

20 人はあらゆる家畜、空の鳥、野のあらゆる獣に名を付けたが、自分に合う助ける者は見つけることができなかった。

21 主なる神はそこで、人を深い眠りに落とされた。人が眠り込むと、あばら骨の一部を抜き取り、その跡を肉でふさがれた。

22 そして、人から抜き取ったあばら骨で女を造り上げられた。主なる神が彼女を人のところへ連れて来られると、

23 人は言った。「ついに、これこそわたしの骨の骨わたしの肉の肉。これをこそ、女（イシャー）と呼ぼう。

まさに、男（イシュ）から取られたものだから。」

24 こういうわけで、男は父母を離れて女と結ばれ、二人は一体となる。

25 人と妻は二人とも裸であったが、恥ずかしがりはしなかった。

◆ 2:20

「自分に合う」の原文は「ウレアダム」と母音記号が読ませるもので定冠詞が含まれていない。固有名詞のアダムともとれるが、種類として特定しない普通名詞アダムという解釈も可能「アダムには」。しかし、3章の用例を見るなら、固有名詞ととるべき。



ベレシート 創世記 3章

■普通名詞ハ・アダムでヘブライ語は書かれているが、翻訳は固有名詞アダムと解釈した。70人訳をみよ

■ 日本語訳（新共同訳）

蛇の誘惑

- 1 主なる神が造られた野の生き物のうちで、最も賢いのは蛇であった。蛇は女に言った。「園のどの木からも食べてはいけない、などと神は言われたのか。」
- 2 女は蛇に答えた。「わたしたちは園の木の果実を食べてもよいのです。」
- 3 でも、園の中央に生えている木の果実だけは、食べてはいけない、触れてもいけない、死んではいけないから、と神様はおっしゃいました。」
- 4 蛇は女に言った。「決して死ぬことはない。」
- 5 それを食べると、目が開け、神のように善悪を知るものとなることを神はご存じなのだ。」
- 6 女が見ると、その木はいかにもおいしそうで、目を引き付け、賢くなるように唆していた。女は実を取って食べ、一緒にいた男にも渡したので、彼も食べた。
- 7 二人の目は開け、自分たちが裸であることを知り、二人はいちじくの葉をつづり合わせ、腰を覆うものとした。
- 8 その日、風の吹くころ、主なる神が園の中を歩く音が聞こえてきた。
アダムと女が、主なる神の顔を避けて、園の木の間に隠れると、
- 9 主なる神はアダムを呼ばれた。「どこにいるのか。」
- 10 彼は答えた。「あなたの足音が園の中に聞こえたので、恐ろしくなり、隠れております。わたしは裸ですから。」
- 11 神は言われた。「お前が裸であることを誰が告げたのか。取って食べるなど命じた木から食べたのか。」



ベレシート 創世記 3章

- ◆ 12の原文はאדם האומר ויאמר אדםとなっているので「その人は言った」普通名詞の意味
- ◆ 17の原文は母音記号が「ウレアダム」と読ませ、定冠詞がふくまれていない。固有名詞アダムとして、神が理解したか？2:20も同じ。解釈としては普通名詞で定冠詞の特定が場合の可能性もある。

■ 日本語訳（新共同訳）

12 アダムは答えた。

「あなたがわたしと共にいるようにしてくださった女が、木から取って与えたので、食べました。」

13 主なる神は女に向かって言われた。「何ということをしたのか。」女は答えた。

「蛇がだましたので、食べてしまいました。」

14 主なる神は、蛇に向かって言われた。「このようなことをしたお前はあらゆる家畜、あらゆる野の獣の中で呪われるものとなった。お前は、生涯這いまわり、塵を食らう。

15 お前と女、お前の子孫と女の子孫の間にわたしは敵意を置く。彼はお前の頭を砕きお前は彼のかかとを砕く。」

16 神は女に向かって言われた。「お前のはらみの苦しみを大きなものにする。お前は、苦しんで子を産む。お前は男を求め彼はお前を支配する。」

17 神はアダムに向かって言われた。「お前は女の声に従い取って食べるなど命じた木から食べた。お前のゆえに、土は呪われるものとなった。お前は、生涯食べ物を得ようと苦しむ。

18 お前に対して土は茨とあざみを生えいさせ野の草を食べようとするお前に。



ベレシート 創世記 3章

■3：20原文はハ・アダム普通名詞となっている。3：21は定冠詞抜き「ウレアダム」と読ませるので固有名詞。同じ読みをさせるケースが3:17;2:20にある。いずれも神が主語となる場合と思われる。

■ 日本語訳（新共同訳）

19 お前は顔に汗を流してパンを得る土に返るときまで。

お前がそこから取られた土に。塵にすぎないお前は塵に返る。」

20 アダムは女をエバ（命）と名付けた。彼女がすべて命あるものの母となったからである。

21 主なる神は、アダムと女に皮の衣を作って着せられた。

22 主なる神は言われた。

「人は我々の一人のように、善悪を知る者となった。今は、手を伸ばして命の木からも取って食べ、永遠に生きる者となるおそれがある。」

23 主なる神は、彼をエデンの園から追い出し、彼に、自分がそこから取られた土を耕させることにされた。

24 こうしてアダムを追放し、命の木に至る道を守るために、エデンの園の東にケルビムと、きらめく剣の炎を置かれた。



ベレシート 創世記 4章

■ ハ・アダム 普通名詞

■ 日本語訳（新共同訳）

カインとアベル

- 1 さて、**アダム**は妻エバを知った。彼女は身ごもってカインを産み、「わたしは主によって男子を得た」と言った。
- 2 彼女はまたその弟**アベル**を産んだ。**アベル**は羊を飼う者となり、**カイン**は土を耕す者となった。
- 3 時を経て、**カイン**は土の実りを主のもとに献げ物として持って来た。
- 4 **アベル**は羊の群れの中から肥えた初子を持って来た。主は**アベル**とその献げ物に目を留められたが、
- 5 **カイン**とその献げ物には目を留められなかった。**カイン**は激しく怒って顔を伏せた。
- 6 主は**カイン**に言われた。「どうして怒るのか。どうして顔を伏せるのか。
- 7 もしお前が正しいのなら、顔を上げられるはずではないか。正しくないなら、罪は戸口で待ち伏せており、お前を求める。お前はそれを支配せねばならない。」
- 8 **カイン**が弟**アベル**に言葉をかけ、二人が野原に着いたとき、**カイン**は弟**アベル**を襲って殺した。
- 9 主は**カイン**に言われた。「お前の弟アベルは、どこにいるのか。」
カインは答えた。「知りません。わたしは弟の番人でしょうか。」
- 10 主は言われた。「何ということをしたのか。お前の弟の血が土の中からわたしに向かって叫んでいる。



ベレシート 創世記 4章

神のツエレムを受け継ぐカインの系図

- 11 今、お前は呪われる者となった。お前が流した弟の血を、口を開けて飲み込んだ土よりもなお、呪われる。
- 12 土を耕しても、土はもはやお前のために作物を産み出すことはない。お前は地上をさまよい、さすらう者となる。」
- 13 **カイン**は主に言った。「わたしの罪は重すぎて負いきれません。
- 14 今日、あなたがわたしをこの土地から追放なさり、わたしが御顔から隠されて、地上をさまよい、さすらう者となってしまえば、わたしに出会う者はだれであれ、わたしを殺すでしょう。」
- 15 主は**カイン**に言われた。「いや、それゆえ**カイン**を殺す者は、だれであれ七倍の復讐を受けるであろう。」
- 主は**カイン**に出会う者がだれも彼を撃つことのないように、**カイン**にしるしを付けられた。
- 16 **カイン**は主の前を去り、エデンの東、ノド（さすらい）の地に住んだ。
- 17 **カイン**は妻を知った。彼女は身ごもって**エノク**を産んだ。
- カイン**は町を建てていたが、その町を息子の名前にちなんで**エノク**と名付けた。
- 18 **エノク**には**イラド**が生まれた。**イラド**は**メフヤエル**の父となり、**メフヤエル**は**メトシャエル**の父となり、**メトシャエル**は**レメク**の父となった。
- 19 **レメク**は二人の妻をめとった。一人は**アダ**、もう一人は**ツィラ**といった。
- 20 **アダ**は**ヤバル**を産んだ。**ヤバル**は、家畜を飼い天幕に住む者の先祖となった。
- 21 その弟は**ユバル**といい、豎琴や笛を奏でる者すべての先祖となった。



ベレシート 創世記 4章

■	アダム	固有名詞
■	ハ・アダム	普通名詞

- 22 ツィラもまた、トバル・カインを産んだ。
彼は青銅や鉄でさまざまな道具を作る者となった。
トバル・カインの妹はナアマといった。
- 23 さて、レメクは妻に言った。「アダとツィラよ、わが声を聞け。
レメクの妻たちよ、わが言葉に耳を傾けよ。
わたしは傷の報いに男を殺し打ち傷の報いに若者を殺す。
- 24 カインのための復讐が七倍ならレメクのためには七十七倍。」
- 25 再び、アダムは妻を知った。彼女は男の子を産み、セトと名付けた。
カインがアベルを殺したので、神が彼に代わる子を授け（シャト）られたからである。
- 26 セトにも男の子が生まれた。彼はその子をエノシュと名付けた。
主の御名を呼び始めたのは、この時代のことである。



ベレシート 創世記 5 章

1章ハ・アダムは「神の形（ツェレム エロヒーム）」
5章アダムは「神の似姿（デムート・エロヒーム）」
5:1-2の原文はいずれも定冠詞なし固有名詞アダム。しかし翻訳者は最初を固有名詞ととり、残りを特定されない種類アダムと解釈か。

■ アダムの系図

- 1 これはアダムの系図の書である。神は人を創造された日、神に似せて（デムート・エロヒムで）これを造られ、
- 2 男と女に創造された。創造の日に、彼らを祝福されて、人と名付けられた。
- 3 アダムは百三十歳になったとき、自分に似た、自分にかたどった男の子をもうけた。
アダムはその子をセトと名付けた。
- 4 アダムは、セトが生まれた後八百年生きて、息子や娘をもうけた。
- 5 アダムは九百三十年生き、そして死んだ。
- 6 セトは百五歳になったとき、エノシュをもうけた。
- 7 セトは、エノシュが生まれた後八百七年生きて、息子や娘をもうけた。
- 8 セトは九百十二年生き、そして死んだ。



二つの異なる種類のアダム

■ アダム	固有名詞
■ ハ・アダム	普通名詞

- 創世記 1 章
- ハ・アダム 普通名詞
- 影 ツェレム בצלמו בצלם אלהים
- 神の形（ツェレム エロヒーム）
- 物質的な文明構築
- 世界中の土を集めて作妙った「土」
- グローバルな存在
- 寿命 120 歳
- 創世記 5 章
- アダム 固有名詞
- 似姿 デムート ובצלמנו כדמותנו
- 神の似姿（デムート・エロヒーム）
- 精神的で信仰的
- 私のために土の祭壇を作れの「土」
- ローカルな存在
- 寿命 930 歳
- ノア



ベレシート 創世記 6ー7章

■ ノア 固有名詞
■ ハ・アダム 普通名詞

● 7 : 1

1 主はノアに言われた。

「さあ、あなたとあなたの家族は皆、箱舟に入りなさい。

この世代の中であなただけはわたしに従う人だと、わたしは認めている。

● 6 : 5ー8 洪水

5 主は、地上に人の悪が増し、常に悪いことばかりを心に思い計っているのを御覧になって、

6 地上に人を造ったことを後悔し、心を痛められた。

7 主は言われた。「わたしは人を創造したが、これを地上からぬぐい去ろう。

人だけでなく、家畜も這うものも空の鳥も。わたしはこれらを造ったことを後悔する。」

8 しかし、ノアは主の好意を得た。



洪水の後に思うこと

- 洪水の前 6 : 5-6

神は、人間の心の思考、その衝動の全てが、一日中、悪であるからハ・アダムを地上から消し去ると言っていた。

- 洪水の後 8 : 2 1

人に対して大地を呪うことは二度とすまい。人が心に思う事は幼い時から悪いのだ。



● アブラムの召命と移住

1 主はアブラムに言われた。

「あなたは生まれ故郷、父の家を離れてわたしが示す地に行きなさい。」

2 わたしはあなたを大いなる国民にし、あなたを祝福し、
あなたの名を高める祝福の源となるように。

3 あなたを祝福する人をわたしは祝福し、あなたを呪う者をわたしは呪う。
地上の氏族はすべて、あなたによって祝福に入る。」



● ソドムのための執り成し

- 16 その人たちはそこを立って、ソドムを見下ろす所まで来た。アブラハムも、彼らを見送るために一緒に行った。
- 17 主は言われた。「わたしが行おうとしていることをアブラハムに隠す必要があるだろうか。
- 18 アブラハムは大きな強い国民になり、世界のすべての国民は彼によって祝福に入る。
- 19 わたしがアブラハムを選んだのは、彼が息子たちとその子孫に、主の道を守り、主に従って正義を行うよう命じて、主がアブラハムに約束したことを成就するためである。」
- 20 主は言われた。「ソドムとゴモラの罪は非常に重い、と訴える叫びが実に大きい。
- 21 わたしは降って行き、彼らの行跡が、果たして、わたしに届いた叫びのとおりかどうか見て確かめよう。」
- 22 その人たちは、更にソドムの方へ向かったが、アブラハムはなお、主の御前にいた。
- 23 アブラハムは進み出て言った。「まことにあなたは、正しい者を悪い者と一緒に滅ぼされるのですか。
- 24 あの町に正しい者が五十人いるとしても、それでも滅ぼし、その五十人の正しい者のために、町をお赦しにはならないのですか。
- 25 正しい者を悪い者と一緒に殺し、正しい者を悪い者と同じ目に遭わせるようなことを、あなたがなさるはずはございません。全くありえないことです。全世界を裁くお方は、正義を行われるべきではありませんか。」
- 26 主は言われた。「もしソドムの町に正しい者が五十人いるならば、その者たちのために、町全部を赦そう。」
- 27 アブラハムは答えた。「塵あくたにすぎないわたしですが、あえて、わが主に申し上げます。
- 28 もしかすると、五十人の正しい者に五人足りないかもしれません。
- それでもあなたは、五人足りないために、町のすべてを滅ぼされますか。」主は言われた。「もし、四十五人いれば滅ぼさない。」



29 アブラハムは重ねて言った。「もしかすると、四十人しかいないかもしれません。」
主は言われた。「その四十人のためにわたしはそれをしない。」

30 アブラハムは言った。
「主よ、どうかお怒りにならずに、もう少し言わせてください。
もしかすると、そこには三十人しかいないかもしれません。」
主は言われた。「もし三十人いるならわたしはそれをしない。」

31 アブラハムは言った。
「あえて、わが主に申し上げます。もしかすると、二十人しかいないかもしれません。」
主は言われた。「その二十人のためにわたしは滅ぼさない。」

32 アブラハムは言った。
「主よ、どうかお怒りにならずに、もう一度だけ言わせてください。
もしかすると、十人しかいないかもしれません。」
主は言われた。「その十人のためにわたしは滅ぼさない。」

33 主はアブラハムと語り終わると、去って行かれた。アブラハムも自分の住まいに帰った。



アブラハム レフレハー

創世記 1 2 章からは、アブラハムという固有名詞の人生の物語
ここから、トーラーの物語は、

- ① 宇宙的な歴史からミクロな視点の歴史に進んでいく
- ② 同時に宇宙的な関心と使命を帯びている

- アブラハムは 10 の試練を与えられて、それらをクリアして特別の「神の友」になる
- トーラーの物語が、その無名の個人にありえない使命と約束
「大いなる国民となし、祝福しあなたの名をたからしめ・・・「全地の全家族はあなたによって祝福される」を与えるという時点で、明らかな天地創造の視座の方向性が伺える。



アブラハム ソドムとゴモラ

アブラハムと主の関係が、個人的な友情関係というよりも、宇宙的な目的を視野に収めているものだとわかる

固有名詞アブラハムならではの、の論点

仮に50人の義人がいたとしても、みんな集合場所に現れることができない、それぞれの事情が5人にはあって、その場所に来ない時に、街全体を50人に満たないから滅ぼすのか？という問いを主に投げかけます。主はそこで45人の故に街全体を滅ぼすことはしないと答えます。

- トーラーは、宇宙的な視点で始めた普通名詞のアダムのストーリーを、地上を蠢くアダムの子ら個々人のストーリーに発展
- 個人の存在の宇宙的な意義、つまり、その言葉と行動は世界全体の運命と無関係ではない。

「持続可能な開発」を大所高所から考える人たちの思考は普通名詞の産物。だとしても、それを考えている一人一人は、固有名詞の存在であることを忘れてはいけない。

天王寺動物園

ボクは

まさひろ

名前をもらって
こりゃコケッコウ！

「奇跡のニワトリ」

「幸運のニワトリ」

